

高所作業車架装部解体マニュアル

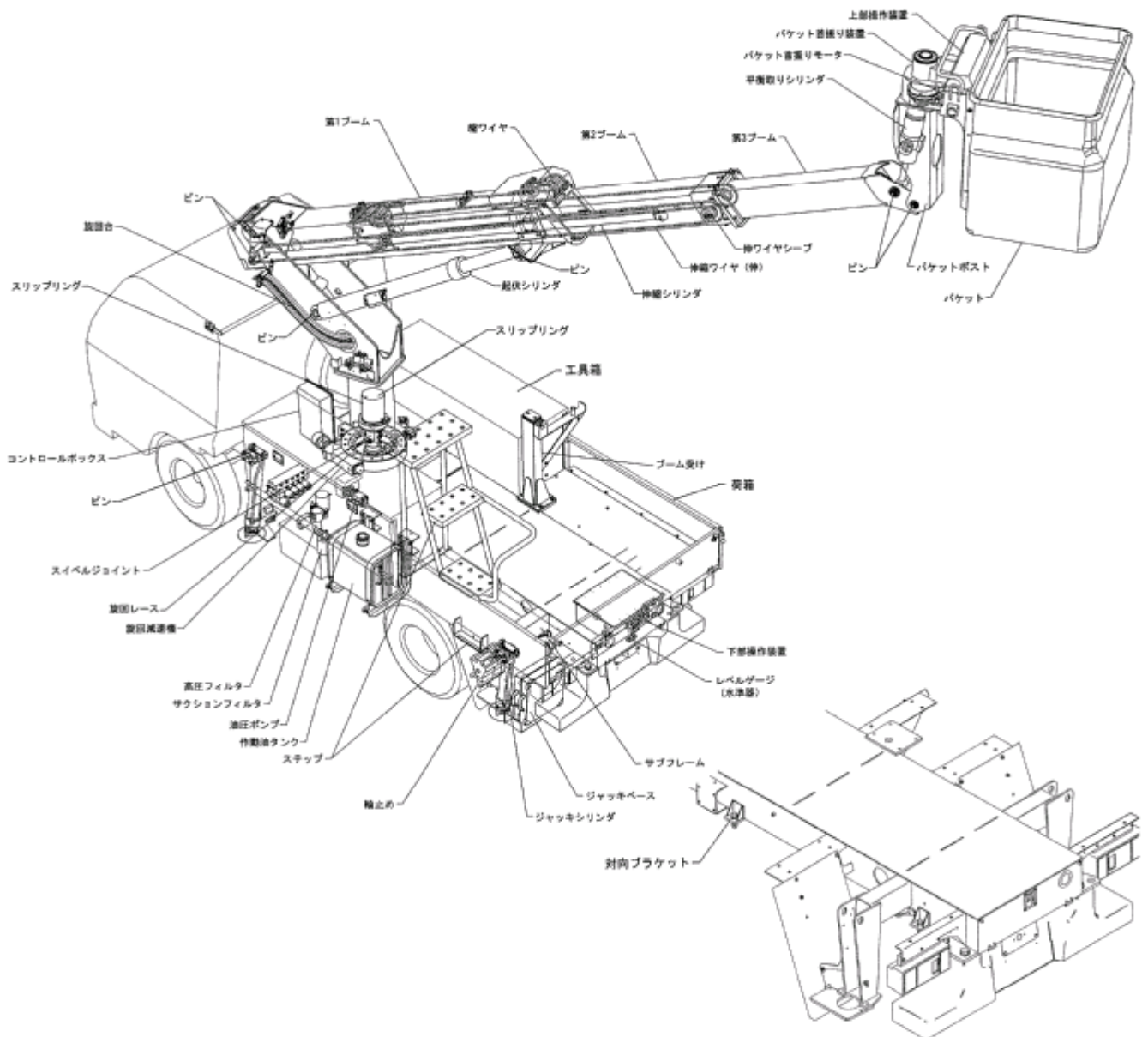
1. はじめに

本解体マニュアルは、作業床の最大高さが10mクラスの車両の一般的な解体例を示し、掲載されている形状と実物は異なる場合があります。

この解体マニュアルは解体業者が安全に解体するための参考例です。解体作業に当たっては、(社)日本自動車車体工業会のホームページ(URL: <http://www.jabia.or.jp/>)に掲載されている「解体マニュアル(車体工業会共通版)」も参考に、解体場所、設備及び用具等に注意し、安全作業及び環境保全に留意し、関係法令を遵守して解体を行ってください。

尚、本解体マニュアルにて解体作業を実施された際に、お客様または第三者に損害が生じた場合、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

2. 車両各部の名称



3. 事前処理

解体は作動油等が流れ出さないように、出来るだけ屋内で行ってください。

また、やむをえず屋外で解体する場合は、作動油等の地面への流出防止策を施してください。

解体する際は、ジャッキを軽く地面に接地させ、ブームを格納した状態にしてから作業を行ってください。

油圧機器の油圧配管・ホースを取り外す際は、作動油が垂れないように受け皿で受けてください。

作動油量は車両の大きさによっても異なりますが、作業床の最大高さを目安にした場合の油量は以下の通りです。

最大高さ	作動油タンク容量	全体油量
8m～10mクラス	約30～40 l	約40～50 l
12mクラス	約55 l	約75 l
15mクラス	約55 l	約90 l
20mクラス	約100 l	約180 l

油圧部品・配管等を外す場合、場所によっては高圧の作動油が閉じ込められている場合がありますので、取外しの際には十分注意して作業を行ってください。

各部の部品を外す際は、必ずクレーン等で外す部品を支え、安全に留意して行ってください。

なお、ブーム・フレーム等の大型部材については事前に重量等を製造メーカーにお問い合わせください。

4. 解体手順

(1) 工具箱、ステップ及び荷箱等の主要な外装部品を取り外してください。

(2) 作動油タンクのドレンプラグから作動油を抜き取ります。

注：作動油は可燃物です。火気に注意してください。

(3) ブーム先端からバケット側に接続されている、電気配線及び油圧ホースを切り離しまたは切断します。

(4) ブームとバケット部を接続しているピンを抜いて、バケットを外してください。

(5) 旋回台後面からブーム側に接続されている、電気配線及び油圧ホースを切り離しまたは切断します。

(6) 第1ブーム後端のブームと旋回台を固定しているピン及び起伏シリンダのブーム側のピンを抜いて、ブームを取り外してください。

(7) ブームを解体します。

なお、ブームの解体手順については、製造メーカーにお問い合わせください。

(8) 旋回台から起伏シリンダを取り外します。

(9) スイベルジョイント(旋回体送油装置)に接続されている油圧ホース及び配線を全て取り外します。

(10) 旋回台を取り付けているボルトをすべて取り外し、旋回台を外します。

(11) ジャッキシリンダを取り付けているピンを抜いて、ジャッキシリンダを外します。

(12) サブフレーム周りの油圧機器に接続してある油圧ホースを外した後、作動油タンク・フィルタ・バルブ及び油圧ポンプを取り外します。

(13) サブフレーム周りの配線を取り外した後、各種バルブ、下部操作装置等の電気部品を取り外します。

(14) 架装物とシャシを締結している対向ブラケットのボルトを取り外し、サブフレームを降ろします。

この際、シャシ側に取り付けられている油圧ポンプも外してください。

注：ポンプはドライブシャフトを介して取り付けられているものもあります。

(15) 以上で架装物の大まかな解体は終了です。

解体した油圧部品内部に残留している油脂類を全て抜き、適正な処理を行ってください。

5. 終わりに

本解体マニュアルでは2トン車架装の高所作業車を基本に、解体手順の概要について記載してあります。

詳細についてお知りになりたい場合は、車両の製造プレートに記載されています、製品型式(架装型式)

及び製造番号をご確認の上、製造メーカーにお問い合わせください

<参考資料>

高所作業車の主要使用材料は、下記のとおりです。

解体の際には金属類、樹脂、ゴム及び配線等に分別処理してください。

高所作業車主要使用材料（100グラム以上を表示）

	主要名称	部 品	材料1	材料2	材料3	材料4	備考
1	ブーム	第1ブーム	鉄				
		第2ブーム	鉄				
		第3ブーム	鉄	又はFRP			注1
		ブーム伸縮シリンダ	鉄	樹脂	ゴム		
		伸縮ワイヤロープ	鉄				
		捻回ケーブル	樹脂	配線	銅合金(端子)		
		ワイヤシーブ	鉄	樹脂			注2
2	バケット装置	バケットポスト	鉄	銅合金			
		バケット	鉄	又はFRP			
		平衡取りシリンダ	鉄	樹脂	ゴム		
		首振りモータ	鉄	配線			
		操作装置	鉄	樹脂(基板)	ゴム	配線	
3	旋回台	本体	鉄				
		起伏シリンダ	鉄	樹脂	ゴム		
		バルブ	鉄	樹脂	ゴム		
		旋回ベアリング	鉄	樹脂	ゴム		
		スィベルジョイント	鉄	ゴム			
4	ブーム受け		鉄	ゴム			
5	その他油圧系	油圧ポンプ	鉄	アルミ			
		旋回減速機	鉄	銅合金	樹脂	ゴム	注3
		旋回モータ	鉄	アルミ	ゴム		
		油圧ホース	鉄	布入りゴム	ワイヤ入りゴム	又は樹脂	
		ホース継ぎ手	鉄	ゴム			
		油圧配管	鉄				
		配管継ぎ手	鉄	ゴム			
		油圧タンク	鉄	ゴム			
		油圧タンク固定バンド	鉄	ゴム			
		油圧フィルタ	鉄	アルミ	紙		
		作動油	油				
6	その他電気系	コントロールボックス	鉄	樹脂(基板)	ゴム		
		操作装置	鉄	樹脂(基板)	ゴム		
		各リミットスイッチ	樹脂	アルミ	配線		
		スリップリング	鉄	樹脂	配線		
		ハーネスASSY	配線	樹脂	銅合金(端子)		

	主要名称	部 品	材料1	材料2	材料3	材料4	備考
7	艀装部品	工具箱	鉄	ゴム	アルミ		
		サイドガード	鉄				
		ステップ	鉄				
		リアバンパ	鉄				
		荷台	鉄				
		輪止め	廃プラ	又は木			
		ジャッキベース	鉄	木	又は廃プラ	又はゴム	
		水準器	樹脂	ガラス			
8	オプション	作業灯	鉄	ガラス	樹脂	配線	
		電光看板	鉄	ガラス	樹脂	配線	
		警告灯	鉄	ガラス	樹脂	配線	
		バックモニター	鉄	ガラス	樹脂	配線	注4

注1．鉄にFRPコーティングしているものもあります。

注2．シーブ本体が樹脂製のものもあります。

注3．減速機の油は減速機本体のドレンプラグを外して抜いてください。

注4．バックモニターのディスプレイは、シャシの運手席内に取り付けられています。